

1. 検討対象

- (1)主催者等（①主催者等（IOC、IPC、NOC、NPC、IF、マーケティングパートナー（MP））、②要人）
- (2)メディア（オリンピック放送機構、放送権者、報道各社）
- (3)大会スタッフ（①職員、②大会ボランティア、③コントラクター）

2. 論点

★基本スタンス

⇒アスリート以外の関係者については、大会に必要不可欠なアスリート・観戦目的のチケットホルダー等の取扱いを勘案しつつ、大会運営との関わりの度合い、ポジション、業務内容、選手との接触の多寡等に応じ対応を検討。

★主な論点

- 海外関係者の出入国
（対象範囲、14日の待機期間中の行動制限の在り方。下記の行動ルール、宿泊、移動とも関連）
- 行動ルール（用務先の限定等）
- 宿泊
- 移動
- アスリートとの接触
- 検査・事態対応（今後検討）

3. 主催者等

★対象

- ①主催者等
 - IOC、IPC、NOC、NPC、IF、マーケティングパートナー（MP）を想定。
- ②要人
 - 首脳級外国要人、閣僚級外国要人、国内要人を想定。
※要人については、対応の在り方を別途検討。外国要人については出入国の取扱いを含む検討や各国政府・在京大使館との連携が必要。

★基本的な考え方、出入国

- 主催者等のうち海外からの入国者については、参加者の個々の特性に応じ、必要な防疫上の措置を講じた上での入国後の行動ルールの検討を進める。

★大会中の行動ルール

- 安全・安心な大会運営の実現のため、用務先を含めた行動ルールを定める。行動ルールは勤務・活動時間外についても検討。

★宿泊

- 宿泊施設は、組織委員会手配のホテルと独自手配のホテル。
- 一般客も宿泊するホテルについて、業種別ガイドライン等を踏まえたコロナ対策をホテル等に対し要請。

★移動

- 延期前の計画では対象により異なる。組織委手配車両、自己手配車両に加え、公共交通機関も併用。
- 海外からの入国者について、移動ルールの検討を進める。

3. 主催者等(続き)

★アスリートとの接触

- 表彰式のプレゼンターとなる関係者がある（プレゼンターの決定は通常は表彰式の前日）。基本的な感染対策（待機中のソーシャルディスタンス、マスク着用、手指消毒等）を徹底するなどして、工夫して表彰式を実現。
- 選手とのその他の接触についても最小限となるよう、行動ルールを定める。
- 選手と接触するNOC/NPCやIFの関係者（※）については、安全・安心な大会の実現のため、宿泊・輸送・検査について別途検討。
※アスリートの活動を支援するアディショナル・チーム・オフィシャル（ATO）、選手団団長を兼ねるNOC/NPC会長などの一部のNOC/NPC関係者、また、主に海外から参加する審判等の技術役員（ITO）、国内から参加する審判等の技術役員（NTO）、競技運営に不可欠なIFスタッフなどのIF関係者を想定。

4. メディア

★対象

- オリンピック放送機構(OBS)、放送権者(RHB)、報道各社(PRS)を想定。
- OBSが国際放送映像信号を作成。RHBが各国向けに放送・配信。PRSは報道。

★基本的な考え方、出入国

- 従来、大多数のメディアの入国は開会式の1週間前～直前。他の取材要請もあり、14日待機の機会費用や追加コストにも鑑み、14日間の待機のために早期入国可能なメディアは極少数。このため、メディアについては、特性に応じ、必要な防疫措置を講じた上での入国後の行動ルールの検討を進める。

★大会中の行動ルール

- 安全・安心な大会運営の実現のため、用務先（例えば、競技会場、IBC/MPC、選手村、練習会場、大使館、各国のハイパフォーマンスセンター等）を含めた行動ルールを定める。行動ルールは勤務・活動時間外についても検討。
- メディアの行動ルールについては取材の自由との調整が必要。

★宿泊

- 宿泊施設は、組織委員会手配のホテルと独自手配のホテル。
- 一般客も宿泊するホテルについて、業種別ガイドライン等を踏まえたコロナ対策をホテル等に対し要請。

★移動

- 延期前の輸送計画では公共交通機関の利用が前提（出入国時の輸送手段は公共交通機関利用。大会中の輸送手段は組織委手配車両と公共交通機関利用の併用）。
- 海外からの入国者について、移動ルールの検討を進める。

★アスリートとの接触（取材エリア等における対応）

【選手取材時】

- メディアとアスリートとの接触については、一定距離を保ちつつ、遮蔽物などを用いてメディアとアスリートの濃厚接触を避ける等のルールを設ける（会見・会場内でのアスリート取材等）。
- オンライン等を用いた取材方法も検討。
- 併せてスタッフ削減等も視野に入れ、密集状態を避ける。

4. メディア（続き）

★アスリートとの接触（取材エリア等における対応）（続き）

【MPC、競技会場メディアセンター等のメディアの業務施設】

- 入場人数の制限等により一定距離を保ち、密集状態を回避し、メディア間の感染リスクを防ぐ。

5. 大会スタッフ

★対象

①職員

- 大会準備から本番まで一貫して関わる者が中心。

②大会ボランティア※

- 大会直前から本番時に関わる者が中心。一部、テストイベントに参加する者もあり。
- 海外在住者の中には、国内で確保が困難な、様々な国際大会での経験を有する者や、少数言語を扱う者等の専門的人材も含まれる。

※都市ボランティアについては、第5回の調整会議において検討

③コントラクター

- 国内外の受託事業者。受託業務内容は大会運営全般であり、多岐にわたる（例えば、会場運営、警備、輸送、食事、清掃等）。
- 海外在住者の中には、大会運営に不可欠な者（例えば、競技計測、会場・仮設電源整備等に従事する者）も含まれる。

★基本的な考え方

- 感染予防に向けた基本行動の徹底。
- 選手との接触のある者については、検査も含め、更に徹底した対策が必要。

★出入国

- 専門的人材（コントラクター等）は、大会の実施に必要不可欠であり、必要な防疫上の措置を講じた上での入国後の行動ルールの検討を進める。なお、その一部は、大会数か月前からの来日が必要。
- 海外在住のボランティアのうち、不参加の者、入国後行動が制約される者等については、国内在住のボランティアでの対応を検討。

★大会中の行動ルール

- 安全・安心な大会運営の実現のため、用務先を含めた行動ルールを別途定める。体調管理シートを活用し自己管理。行動ルールは勤務・活動時間外についても検討。
- 会場の共用品の清拭などについては、ボランティアの方にも担っていただくことを想定。

★宿泊

- 宿泊施設は、一部組織委員会手配のホテル。多くは独自手配のホテル又は自宅。
- 一般客も宿泊するホテルについて、業種別ガイドライン等を踏まえたコロナ対策をホテル等に対し要請。

★移動

- 延期前の輸送計画では、出入国時も大会中も、公共交通機関の利用が前提。
- 海外からの入国者について、移動ルールの検討を進める。

5. 大会スタッフ（続き）

★アスリートとの接触、検査

- アスリートとの接触のある者については、検査も含め、更に徹底した対策が必要。【再掲】
- アスリートとの接触のある者としては、基本的な対策（マスクの着用等）を取れない環境でアスリートと手で触れることが可能な範囲で業務・活動する者や、基本的な対策を取りながらもアスリートと長時間の行動及び移動を共にする者等を想定。

【参考】 共通で想定される基本的な行動ルール例

- 三密の回避やソーシャルディスタンスの確保
- マスク着用の徹底
- 手洗い、手指消毒の徹底
- 咳エチケットの遵守、大声を出さない
- 食事や休憩時のルールの遵守
- 握手やハイタッチ等の自粛
- 共用品等の清拭
- 室内換気の徹底
- 体調管理の徹底
- 業務・活動時間外の行動制約

※上記のほか、出入国等、競技会場等の場面に応じた行動ルールを関係者グループごとに今後整理。